

感染症内科

上平朝子

当院は平成9年4月にエイズ治療の近畿地方ブロック拠点病院に選定され、診療、研究、情報発信、教育研修の4つの機能を求められている。当院のHIV患者数は、毎年1年間で200名以上の新規患者が受診し、平成26年3月末現在、当院のHIV感染症累計患者数は約2700名を超えている。入院累積患者数は3200名以上となり、外来・入院ともに診療患者数は年々増加している。当科では、HIV感染症に関する多様なニーズに対して、医師、看護師、薬剤師、カウンセラー、情報担当官、ソーシャルワーカーらでチーム医療を実践している。現在の診療内容は、HIV感染症が全体の9割近くを占めており、その他は免疫疾患、一般感染症（一類、二類を除く）などである。

「主な診療、研究」

日和見感染症に対する治療や予防の進歩と抗HIV療法の確立によってエイズによる死亡者数は減少した。当科では、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、カンジダ症、クリプトコッカス髄膜炎、非結核性抗酸菌症など多彩な病原体による日和見感染症や日和見腫瘍（主に悪性リンパ腫やカポジ肉腫）の診療を行っている。また、新しい抗HIV薬も次々と承認され、最新の治療を提供している。毎年、180名前後の初回治療導入例があるが、平成25年度の初回治療レジメンで、最も多かったのは一日一回一錠の新薬であった。しかし、長期間にわたり正確な内服を継続しなければならない抗HIV療法の身体的、精神的負担、HIV関連以外の悪性腫瘍合併例の増加、糖尿病や心・腎合併症など生活習慣病への対応など課題もある。平成25年5月より、身体症状の緩和と精神的なケアを目的に、多職種による専従のチームを設置し、がん患者のみに提供していた緩和ケアをエイズ患者にも行っている。また、抗HIV薬の治療効果や副作用の調査及び検討、HIV関連の悪性腫瘍や神経疾患、免疫再構築症候群、急性HIV感染症などの難治性病態についての臨床研究や症例検討、ウイルス肝炎（HCV、HBV）とHIVとの重複感染についての症例研究などを行い、厚生労働科研などを通じ、多施設との共同研究にも参加している。また、日本エイズ学会や日本感染症学会を始めとした多くの学会における発表や、論文発表を行っている。

「情報発信、教育研修」

HIV感染症は、病原体も感染経路も予防方法も明らかであるにも関わらず蔓延している。日本では、30～40歳代の若者を中心に患者数が増加している。性感染症としてのHIV感染症の早期発見と予防のために、病気についての正しい知識を幅広く提供している。現在、ブロック拠点病院である当院にHIV感染症患者が集中していることから、中核拠点病院を始めとした各拠点病院と連絡会議や研修会を行い、連携を強化している。HIV診療のレベルの向上や人材育成を図るために、専門医師養成実地一ヶ月研修（講義・病棟実習）、各種専門職研修など多数の研修会を実施している。また、各種マニュアル

や冊子を作成し配布している。HIV エイズ先端医療開発センターのホームページからも、最新の情報発信を行っている (<http://www.onh.go.jp/khac/>)。さらに、HIV 患者の長期療養や一般医療の必要性も高まっており、地域の医療機関や訪問看護との連携も積極的に行っている。症例相談、針刺し等の職務感染防止への対応、生活療養支援など、さまざまな相談にすみやかに対応できる体制を目指している。

【2013 年研究発表業績】

A-1

Shimamoto Y, Fukuda T, Tominari S, Fukumoto K, Ueno K, Dong M, Tanaka K, Shirasaka T, Komori K : Decreased vancomycin clearance in patients with congestive heart failure. Eur J Clin Pharmacol 69(3):449-457 (2013年4月)

Tominari S, Nakakura T, Yasuo T, Yamanaka K, Takahashi Y, Shirasaka T, Nakayama T : Implementation of mental health service has an impact on retention in HIV care: a nested case-control study in a Japanese HIV care facility. PLOS ONE 8(7):1-6 (2013年7月)

Watanabe D, Otani N, Suzuki S, Dohi H, Hirota K, Yonemoto H, Koizumi Y, Otera H, Yajima K, Nishida Y, Uehira T, Shima M, Shirasaka T, and Okuno T : Evaluation of VZV-specific cell-mediated immunity in adults infected with HIV-1 by using a simple IFN- γ release assay. J Med Virol. 85(8):1313-20 (2013年8月)

Ota Y, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Moritani S, Oyaizu N, Mine S, Ajisawa A, Tanuma J, Uehira T, Hagiwara S, Yajima K, Koizumi Y, Shirasaka T, Kojima Y, Nagai H, Yokomaku Y, Shiozawa Y, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Katano H. Classification of AIDS-related lymphoma cases between 1987 and 2012 in Japan based on the WHO classification of lymphomas, fourth edition. Cancer Med. 2014 Feb;3(1):143-53. (2014年2月)

Imahashi M, Izumi T, Watanabe D, Imamura J, Matsuoka K, Ode H, Masaoka T, Sato K, Kaneko N, Ichikawa S, YKoyanagi Y, Takaori-Kondo A, Utsumi M, Yokomaku Y, Shirasaka T, Sugiura W, Iwatani Y, and Naoe T : Lack of Association between Intact/Deletion Polymorphisms of the APOBEC3B Gene and HIV-1 Risk. PLoS ONE. 9(3): e92861. (2014年3月)

A-2

白阪琢磨 : 抗 HIV 用薬。「治療薬ハンドブック 2014」、株式会社じほう、2014 年 2 月

A-3

金島 広、吉田全宏、小川吉彦、中尾隆文、中野 智、井上 健、山根孝久:自家末梢血幹細胞移植が奏効した POEMS 症候群。「癌と化学療法」第 40 巻 4 号 P503-506、(株)癌と化学療法社、2013 年 4 月

吉田全宏、金島 広、中尾隆文、小川吉彦、日野雅之、中根孝彦、太田忠信、久村岳央、間部賢寛、山村亮介、山根孝久:エルトロンボパグを使用した難治性特発性血小板減少性紫斑病の後方視的検討。「臨床血液」Vol.54,No.5 P444-450、日本臨床血液学会、2013 年 5 月

木村哲、山本政弘、橋野聡、伊藤俊弘、上平朝子: HIV 感染症の検査・診断・治療における「連携」の諸問題について考える。「医薬の門」Vol.53,No.6 P357-365、(株)鳥居薬品、2013 年 8 月

小川吉彦、吉田全宏、金島 広、中尾隆文、白野倫徳、後藤哲志、福島裕子、井上 健、山根孝久:当院における HIV 感染合併非ホジキンリンパ腫の臨床的検討。「癌と化学療法」40 巻 8 号 P1027-1030、2013 年 8 月号

天野景裕、田沼順子、渡邊大:将来を見据えた HIV 診療マネジメント-For the future today -「大阪医療センターにおけるアバカビル投与症例の現状」第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会共催セミナー9 記録集、2013 年 12 月

渡邊大:大阪医療センターにおけるインテグラーゼ阻害剤の耐性例。「HIV 感染症と AIDS の治療」印刷中、(株)メディカルレビュー社

A-4

白阪琢磨:「服薬をはじめのまえに」第 4 版、鳥居薬品(株)患者様用服薬支援冊子、2013 年 5 月

ICHG 研究会:新井裕子、井内律子、大澤栄子、笠井正志、金澤美弥子、佐々木富子、鹿倉節子、白阪琢磨、杉山香代子、竹本真美、田中裕子、長谷川ゆり子、藤田直久、村田郁子、三浦正義、村山郁子、山崎真紀子、山之上弘樹、由良嘉兵衛、波多江新平:標準予防策・接触感染予防策・医療従事者の服装・手洗い。「クリニックマガジン」40 巻 5 号 P45-49、2013 年 5 月

白阪琢磨: INFORMATION HIV 感染症「治療の手引き」〈第 16 版〉。Confronting HIV 2013 No.43 11-13、2013 年 6 月

白阪琢磨: HIV 感染症の長期的治療戦略 3.治療処方 of 単純化の動向。「化学療法の領域」 Vol.29 No.9 P45-52、(株)医薬ジャーナル社、2013 年 9 月

白阪琢磨: DVD「温故知新～薬害から学ぶ～DVD シリーズ⑤薬害エイズ事件」インタビュー出演。一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 薬害教育映像コンテンツ、2013 年 10 月

小川吉彦、上平朝子: Q&A 形式 Case Study 進行期悪性リンパ腫の合併症例。「HIV 感染症と AIDS の治療」 Vol.4, No.2 P30-32、(株)メディカルレビュー社、2013 年 11 月

上平朝子: 結核治療中に発症した急性 C 型肝炎:「HIV 感染症と AIDS の治療」 Vol.4 No.2 P39-41、(株)メディカルレビュー社、2013 年 11 月

白阪琢磨: HIV/AIDS の現状と最新医療。「大津市医師会誌」 Vol.36 第 426 号 P11-14、2013 年 11 月

白阪琢磨: 特集記事エイズ「予防と治療の効果で、AIDS による死亡者数は減少...しかし国内では、新規 HIV 感染者・AIDS 患者とも予断を許さない状況です — 最新の都道府県別累積報告数もお知らせします。「健」 42(9)P22-23、2013 年 12 月

矢嶋敬史郎、大寺博: エイズに見られる感染症と悪性腫瘍 (2) クリプトコッカス症。「化学療法の領域」 Vol.29, No.12 P4-10、(株)医薬ジャーナル社、2013 年 12 月

今村顕史、照屋勝治、渡邊大、鯉淵智彦: 座談会『HIV 感染症治療の最前線』。「化学療法の領域」 Vol.30, No.1 P129-138、(株)医薬ジャーナル社、2013 年 12 月

渡邊大、小川吉彦: エイズに見られる感染症と悪性腫瘍 (5) 『トキソプラズマ脳症』。「化学療法の領域」 Vol.30, No.3 P392-398、(株)医薬ジャーナル社、2014 年 2 月

A-6

白阪琢磨: 中高年にエイズが急増中「死ぬまで SEX」の危険。「AERA」26 巻 42 号 P58-59、2013 年 10 月

白阪琢磨: 中学・高校生に知ってほしい HIV/AIDS 知識。「中学保健ニュース」1577 号付録 1-1、2013 年 11 月

白阪琢磨: きょう世界エイズデー HIV 検査中高年敬遠「自分とは関係ないものだと...」。

産経新聞 14 版 P.22、2013 年 12 月 1 日

白阪琢磨：エイズ治療の理解へシンポ。中日新聞 12 版 P.24、2014 年 2 月

白阪琢磨：第 6 回市民公開シンポジウム「エイズ無き時代を目指して～過去から未来へ～」。中日新聞 P.9、2014 年 2 月

B-1

西田恭治：討論（表題なし）。Global Advisory Board Meeting NovoSeven、スイス、2013 年 5 月

西田恭治：血友病医療の今後に関する提唱（アドバイザープレゼンター）。Global Advocacy Leadership Summit、チェコ、2013 年 12 月

B-3

上平朝子：ランチョンセミナー15 講演。第 87 回日本感染症学会学術集会・第 61 回日本化学療法学会総会合同学会、横浜、2013 年 6 月

西田恭治：HIV 診療における CMV 感染症～何をどこまでどう治療するか？～。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 ランチョンセミナー、熊本、2013 年 11 月

白阪琢磨：HIV 感染症治療の手引き 第 17 版。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

矢嶋敬史郎：日本の臨床試験は必要か ～エジュラントを例に考察する～。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

矢嶋敬史郎：HIV 診療における CMV 感染症 ～何をどこまでどう治療するか～。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

矢嶋敬史郎：HIV 感染症の新たな幕開け - STR レジメンの登場 - 。第 56 回日本感染症学会中日本・西日本地方会・学術総会、大阪、2013 年 11 月

青木眞、渡邊大、椎木創一：超困難症例に対するアプローチ（共催セミナー）。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

渡邊大：将来を見据えた HIV 診療マネジメント-For the future today -（共催セミナー）
「大阪医療センターにおけるアバカビル投与症例の現状」。第 27 回日本エイズ学会学術

集会・総会、熊本、2013年11月

B-4

白阪琢磨：抗 HIV 治療、最新の治療戦略について。第 87 回日本感染症学会学術集会・第 61 回日本化学療法学会総会合同学会、横浜、2013 年 6 月

白阪琢磨：HIV・HCV 重複感染-最近の動向-。Japan HIV and Hepatitis Study group 第 1 回研究会 HIV とウイルス肝炎-治療の最前線-、東京、2013 年 6 月

笠井大介、小林和幸、船田泰弘、西村善博：難治性肺炎の診断にて気管支肺胞洗浄を施行された症例に関する検討。日本感染症学会総会、横浜、2013 年 6 月

小泉祐介、廣田和之、米本仁史、伊熊素子、大寺博、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：播種性 M. genavense 感染症を呈した AIDS の 1 例。第 87 回日本感染症学会学術講演会、横浜、2013 年 6 月

米本仁史、渡邊大、廣田和之、小泉祐介、大寺博、矢嶋敬史郎、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：Klebsiella pneumoniae による腎周囲膿瘍と転移性眼内炎を認めた 2 型糖尿病の一例。第 87 回日本感染症学会学術講演会、横浜、2013 年 6 月

渡邊大、大谷成人、廣田和之、米本仁史、小泉祐介、大寺博、矢嶋敬史郎、西田恭治、上平朝子、島正之、白阪琢磨、奥野壽臣：HIV 感染者における水痘・帯状疱疹ウイルスに対する細胞性免疫の評価。第 87 回日本感染症学会学術講演会、横浜、2013 年 6 月

笠井大介：HIV 診療における結核。国立病院総合医学会、金沢、2013 年 11 月

今橋真弓、泉泰輔、渡邊大、今村淳治、松岡和弘、佐藤桂、金子典代、市川誠一、小柳義夫、高折晃史、内海眞、横幕能行、白阪琢磨、直江知樹、岩谷靖雅、杉浦亙：HIV-1 感染伝播・病勢に対する APOBEC3B 遺伝子型の影響に関する解析。第 67 回国立病院総合医学会、金沢、2013 年 11 月

今橋真弓、泉泰輔、渡邊大、今村淳治、松岡和弘、正岡崇志、佐藤桂、金子典代、市川誠一、小柳義夫、高折晃史、内海眞、横幕能行、白阪琢磨、直江知樹、杉浦亙、岩谷靖雅：宿主防御因子 APOBEC3B の遺伝子欠損による HIV-1 感染伝播・病勢への影響に関する研究。第 61 回日本ウイルス学会学術集会、神戸、2013 年 11 月

白阪琢磨、渡邊大、矢嶋敬史郎、吉野宗宏、矢倉裕輝、西本亜矢、廣田和之、伊熊素子、

小川吉彦、笠井大介、西田恭治、上平朝子：国立大阪医療センターでのアイセントレス錠の長期処方例の検討。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

櫛田宏幸、吉野宗宏、矢倉裕輝、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、大寺博、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院における Atovaquone の使用状況調査。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

鍛冶まどか、仲倉高広、宮本哲雄、安尾利彦、森田眞子、大谷ありさ、藤本恵里、西川歩美、下司有加、東政美、鈴木成子、池上幸恵、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染症に関連する神経心理学的検査結果と CD4 値、ウイルス量との関連。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院における Rilpivirine の使用成績。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

中野知沙子、矢嶋敬史郎、島陽子、森影直子、藤村龍太、倭成史、和田晃、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、大寺博、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、伊藤孝仁：ツルバダからエプジコムへ薬剤変更を行った HIV 感染者の腎障害に関する検討。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

矢嶋敬史郎、伊熊素子、廣田和之、小川吉彦、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：抗 HIV 療法開始後に甲状腺機能亢進症を呈した13例の検討。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

矢倉裕輝、吉野宗宏、櫛田宏幸、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、大寺博、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：抗 HIV 薬の簡易懸濁法適用に関する検討 第3報。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

黒田美和、平島園子、伊澤麻未、岡本学、下司有加、上平朝子、白阪琢磨：当科における長期療法を要する患者の検討。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

安尾利彦、仲倉高広、廣常秀人、白阪琢磨、山中京子：HIV 医療におけるカウンセラーの勤務形態および臨床設定の違いによる、カウンセリング機能の明確化の試み。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

藤原良治、橋本謙、早坂典生、山田富秋、種田博之、藤原都、白阪琢磨：血友病 HIV 感染患者に対するインタビュー調査からの現状把握とカウンセリングに関する研究。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

星野慎二、井戸田一朗、日高庸晴、加藤信吾、白阪琢磨：MAM 商業施設の訪問経験がない若年層を対象にした行政・教育・医療提携による多目的支援施設のあり方の検討。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

東政美、下司有加、阿島美奈、宮本ひとみ、白阪琢磨：ブロック拠点病院に勤務する看護師の HIV/AIDS 看護に対する意識調査。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

重見麗、服部純子、蜂谷敦子、瀧永博之、渡邊大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南 留美、吉田繁、森治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、千葉仁志、伊藤俊広、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、岩本愛吉、西澤雅子、岡慎一、松田昌和、林田庸総、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、白阪琢磨、小島洋子、藤井輝久、高田昇、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦互：新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

仲倉高広、下司有加、渡邊大、白阪琢磨：箱庭療法が奏功した HIV 陽性者の心理療法～広汎性発達障害のある HIV 陽性者の事例～。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

白阪琢磨、日笠聡、岡慎一、川戸美由紀、橋本修二、吉崎和幸、福武勝幸、八橋弘：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 1 報 CD4 値、HIV-RNA 量と治療の現状と推移。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

川戸美由紀、橋本修二、岡慎一、吉崎和幸、福武勝幸、日笠聡、八橋弘、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 2 報 抗 HIV 薬の組み合わせの変更と CD4 値、HIV-RNA 量の関係性。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

鈴木成子、竹村康晴、山尾美希、梅原美加子、白阪琢磨：HIV/AIDS の病名告知を受けた家族の思い～ナラティブ（語り）を傾聴することを通して～。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

大北全俊、遠矢和希、加藤譲、FranziskaKasch、花井十伍、横田恵子、白阪琢磨：HIV

感染症に関する倫理的な議論の枠組みについて—海外文献の調査に基づく研究。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

片野晴隆、味澤篤、田沼順子、岡慎一、矢嶋敬史郎、小泉祐介、上平朝子、鯉淵智彦、岩本愛吉、横幕能行、小島勇貴、永井宏和、岡田誠治：日本におけるエイズ関連リンパ腫の病理組織分類。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

矢倉裕輝、坂根貞嗣、榎田宏幸、吉野宗宏、上平朝子、三田英治、白阪琢磨：Etravirine の肝代謝酵素誘導作用により Telaprevir の血中濃度低下が疑われた 1 例。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

渡邊大、鈴木佐知子、蘆田美紗、伊熊素子、廣田和之、小川吉彦、矢嶋敬史郎、笠井大介、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：大阪医療センターにおけるカポジ肉腫関連ヘルペスウイルスの抗体保有率の検討。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

鍛冶まどか、仲倉高広、下司有加、東政美、鈴木成子、池上幸恵、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染をきっかけに他者に不信感を持った HIV 陽性者の風景構成法についての検討。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

小川吉彦、廣田和之、伊熊素子、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：治療抵抗性を示した HIV 感染症合併 CD20 陰性 Diffuse Large B cell Lymphoma。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

大寺博、矢嶋敬史郎、伊熊素子、廣田和之、小川吉彦、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染者に合併した肺の腺扁平上皮癌の一例。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

伊熊素子、渡邊大、廣田和之、小川吉彦、矢嶋敬史郎、笠井大介、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：6 か月間の抗結核治療後に、免疫再構築症候群として脳結核腫の増悪を認めた症例。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

廣田和之、矢嶋敬史郎、伊熊素子、小川吉彦、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：カポジ肉腫の治療中に新たに日和見感染症を発症した 3 例。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

笠井大介、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、

白阪琢磨：大阪医療センターにおける HIV/HCV 重複感染凝固異常患者の解析。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

渡邊大、伊熊素子、矢倉裕輝、高橋昌明、柴田雅章、櫛田宏幸、吉野宗宏、廣田和之、小川吉彦、矢嶋敬史郎、笠井大介、西田恭治、上平朝子、杉浦互、白阪琢磨：抗 HIV 薬の血中濃度モニタリングを行った短腸症候群の一例。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

藤友結実子、廣田和之、米本仁史、大寺博、小泉祐介、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、小澤健太郎：HIV 感染後に尋常性乾癬を発症し、サイトメガロウイルス網膜炎と梅毒感染、カポジ肉腫を合併した一例。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

矢嶋敬史郎、井内亜紀子、黒田美和、安尾利彦、下司有加、仲倉高広、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨：2012 年度における当科の新規受診患者の検討。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

椎野禎一郎、服部純子、瀧永博之、吉田 繁、石ヶ坪良明、近藤真規、貞升健志、横幕能行、古賀道子、上田幹夫、田邊嘉也、渡邊大、森 治代、南留美、健山正男、杉浦 互：国内感染者集団の大規模塩基配列解析 4: サブタイプと感染リスクによる伝播効率の差異。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

B-5

白阪琢磨：開業医が知っておくべき HIV 診療の最新事情。大阪 STI 研究会 第 36 回学術集会、大阪、2013 年 6 月

渡邊大：抗 HIV 治療：最新の治療戦略について（イブニングセミナー）「日本の治療状況について」。第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会、横浜、2013 年 6 月

渡邊大：大阪医療センターにおける HIV 診療の現状と抗 HIV 療法の今後の課題。第 19 回山口 HIV カンファレンス講演会、宇部、2013 年 6 月

矢嶋敬史郎、上平朝子、藤友結実子、廣田和之、米本仁史、小泉祐介、大寺博、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、白阪琢磨：免疫再構築症候群により治療に難渋した HIV 合併クリプトコッカス髄膜炎の 2 例。中日本地方会学術奨励賞授賞記念講演、第 56 回日本感染症学会中日本地方会学術集会、大阪、2013 年 11 月

B-6

蘆田美紗、渡邊大、鈴木佐知子、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、矢嶋敬史郎、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：低コピー数のウイルス量における HIV 薬剤耐性検査に関する検討。第 27 回近畿エイズ研究会・学術集会、大阪、2013 年 6 月

矢嶋敬史郎：HIV 感染症の新たな幕開け - STR レジメンの登場 - 。第 56 回日本感染症学会中日本・西日本地方会・学術総会、大阪、2013 年 11 月

小川吉彦、廣田和之、伊熊素子、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：免疫再構築症候群として結核性腹膜炎を発症した HIV 感染症の一例。第 83 回日本感染症学会西日本地方会・学術集会、大阪、2013 年 11 月